

旅籠屋と養蚕農家の
形式を残した歴史の語り部

海野宿資料館

入館案内

入館料

一般(高校生・大学生含む) ●個人=1人200円・団体(20人以上)=1人150円
児童・生徒(小・中学生) ●個人=1人100円・団体(20人以上)=1人50円

開館時間

午前9時～午後5時(10～12月は午後4時閉館)

休館日

12月下旬～2月末日

お問い合わせ

東御市教育委員会

〒389-0592長野県東御市県288-4 TEL(0268)75-2717 FAX(0268)64-5610

海野宿歴史民俗資料館

〒389-0518長野県東御市本海野1098 TEL・FAX(0268)64-1000

Unno juku(Reservation Area for Important Traditional Buildings)

Unno Juku was established as a post station on the old Hokkoku Kaido in 1625 during the Edo era (1600-1867). It was an important rest spot for travellers to Zenkoji Temple, transporters of commodities, and Daimyo (feudal lords) processions.

When post station declined after the Meiji era (1868-1911), people of Unno Juku began silkworm culture, and silkworm egg production using large rooms.



当資料館は、江戸時代(一七九〇年頃)に建てられた旅籠屋造りの建物で、玄関を入って右手には馬屋・台所、左手には当時帳場があつた店の間から始まり、表座敷・中座敷・奥座敷へと並んでいる。二階は出桁造りで、窓の間から参の間までの大部屋が続き、旅人たちの多くはこのようないい相部屋で泊まつたものである。裏庭には、風呂場・味噌部屋・白壁の土蔵・地下室の桑屋・養蚕関係の展示室などがあり、海野宿特有の旅籠屋造りと明治以降の養蚕農家を兼ね備えた建物である。

展示されている主なもの

- (一) 古代、海野郷の起こり
- (二) 東信濃の名族 海野氏の隆盛
- (三) 北国街道 海野宿に関するもの
- (四) 養蚕・蚕種・製糸に関するもの



東信濃の名族 海野氏の隆盛

海野宿の位置する本海野、その歴史は古く、海野郷としての最初の記録が奈良時代の正倉院御物に見られます。古代から馬飼の豪族で栄えた滋野一族 海野氏発祥の地で平安から鎌倉、戦国期の永きにわたりその本領でした。源平争乱の治承五年(二八二)木曾義仲が海野郷白鳥河原にて挙兵。海野氏はその重臣を担いました。義仲滅亡後、源頼朝に仕えた海野幸氏は鎌倉武士の誉れ、流鏑馬で活躍し西行法師から伝授の弓術で名を馳せました。やがて武田氏の侵攻で海野宗家は絶え、その名跡を真田氏が継承します。真田昌幸の上田築城で海野町を移設、もとの地、本海野となりました。

▲木曾願文(写) 資料提供:富山県小矢部市埴生 護国八幡宮
海野郷の白鳥河原で挙兵した木曾義仲は北陸道から京へ進軍。その途中に、俱利伽羅合戦の戦勝祈願で納められた願文。記したのは義仲の祐筆、大夫房覚明で、その出自は海野氏と伝わる人物。

◆海野氏系図
海野宿の白鳥神社宮司家に伝わる海野氏から真田氏へと繋がる一族系図。
真田氏は幸隆から昌幸、そして幸村までが記されている。
真田幸隆は海野棟綱の女(むすめ)の子とし棟綱の孫で海野幸義の甥としている。(「真田弾正忠号一徳」
斎実真田氏の出自は諸説あるが、いずれにしても海野氏と縁の深い一族と考えられる。



▲木曾願文(写) 資料提供:富山県小矢部市埴生 護国八幡宮



台所・馬屋



囲炉裏



奥座敷

北国街道は江戸時代に中山道と北陸道とを結ぶ北国往還と呼ばれる重要な街道のひとつでした。信濃、北陸の諸大名の参勤交代、佐渡金山の輸送、善光寺参拝客の善光寺街道としても賑わいます。寛保二年(七四二)の洪水で隣の田中宿が被災し本宿としての機能を海野宿に集約。伝馬朱印を用いる物流拠点としても栄えたのです。

北国街道 海野宿の繁栄



表座敷



中座敷

明治時代になり宿場制度が終ると、蚕の卵を商品とする蚕種製造が海野宿の主力産業となります。乾燥した気候と千曲川の風通しの良さが伝染病の害虫が発生しない、健康な蚕の産地に適していました。明治二十六年(一八九四)には蚕種改良海野組合が発足。本海野はおいに潤い、櫻造の堅牢な蚕室や鰯瓦の袖うだつをのせる屋敷が造られ、今に残る伝統的の家屋が軒を連ねました。

まさに蚕で「うだつがあがつた」のです。

裏庭の土蔵、物置には蚕の飼育から卵の種紙、繭、絹糸として使われるまでの蚕業の過程が当時の民具、農機具とともに展示されています。

宿場町から蚕種業へ

明治時代になり宿場制度が終ると、蚕の卵を商品とする蚕種製造が海野宿の主力産業となります。乾燥した気候と千曲川の風通しの良さが伝染病の害虫が発生しない、健康な蚕の産地に適していました。明治二十六年(一八九四)には蚕種改良海野組合が発足。本海野はおいに潤い、櫻造の堅牢な蚕室や鰯瓦の袖うだつをのせる屋敷が造られ、今に残る伝統的の家屋が軒を連ねました。

まさに蚕で「うだつがあがつた」のです。

裏庭の土蔵、物置には蚕の飼育から卵の種紙、繭、絹糸として使われるまでの蚕業の過程が当時の民具、農機具とともに展示されています。



土蔵



生活民具



桑切機